

**No 23 どの子にも効果的な授業力アップ**  
学習適応への小さな工夫(2)

第22号に続いて、授業の押さえどころを発達段階に沿って考えてみます。

**3 小学校5・6年生の押さえどころ**

<キーワード> 科学的に趣旨を説明する 得意分野を見つける

- (1) 科学的に分かりやすく趣旨を説明し、全員を巻き込んで指導します。
- (2) 得意分野を見つけ、多くの教職員が声掛けをします。



- (1) 教師が「こうしてほしい」ということは、「どうしてそうすることがいいのか」子どもたちがよく納得するよう科学的に説明します。例えば、プリントや手紙をぐじゃぐじゃにしまう子や、周りに子に対して、「指先は第二の脳といって、子どもの時から鍛えていると脳の働きがよくなるそうよ。だから、みんなもプリントの端と端をいつもピッタリと合わせて折るようにするといいよ」「どう？脳の働きをよくできたかな？隣同士でよく見てね」などクラス全員を巻き込んで良い方向に導きます。
- (2) 3・4年生同様、裏文化(No22号参照)や委員会活動などで、自分が得意とすることを見つけることが大切です。当番活動などは一人一役にすることにより、活躍できる場を見出すことができます。

**4 中学生の押さえどころ**

<キーワード> プライドを守る 教科担任制を生かす

- (1) 教師を信頼することで指導がさらに生きてきます。生徒のプライドをまずは守ることを心がけます。
- (2) 教科担任制を生かすことが必要です。



- (1) 中学生ともなると、失敗体験を恐れ、「どうせ無理だ」と思う子が多くなりがちです。失敗をして「だめな人」と思われるのならやらないほうがいいと思ってしまうからです。そんな子どもたちがやる気を見せるようになるのは、「失敗しても大丈夫」という安心感が必要です。そのためには「教師がその子のプライドを絶対守る」という強い意識をもって接することが必要です。
- (2) 好きな教科や、得意な面など、多方面から生徒を見取ることができます。先生相互の情報交換による生徒理解や、生徒が信頼している先生を通して働きかけを行うなど、ネットワーク作り・サポートチーム作り等が可能です。

**不適応行動などの症状は不安の防衛反応です。心を追いつめないためには・・・**

心を追いつめるとは、子どもに、安心、満足、希望を与えず、逆に、不安、寂しさ、否定、拒否を与え、子どものプライド(自尊感情)を低下させた状態をいいます。

不安を覚え、人との関係を築くことに自信を失った子どもは、自らの心を守るように、逃避、反抗、攻撃などの世界に入っていく可能性があります。

アスペルガー症候群や高機能自閉症の子どもは、その特徴からもともと不安傾向が強いいため、勉強やスポーツでも勝たなければと感じてしまいがちですが、うまくいかない場合さらに不安が大きくなります。

「自分が認められる」「やったことに対して満足できる」などの小さな経験から、心の安定を図っていきたいものです。

<参考文献:「ADHD症状を抑える授業力!」平山論・甲本卓司編著>

